

札幌報告会 2016 挨拶

平成28年8月25日
幌延深地層研究センター 所長 山口義文

本日はお忙しい中、私どもの「札幌報告会」に足をお運びいただき、ありがとうございます。

本年4月1日よりセンター所長を務めております山口と申します。よろしく願い申し上げます。

本日の報告会では、幌延深地層研究計画における平成27年度の調査研究の成果を報告書として取りまとめましたので、平成28年度の計画とあわせて報告させていただきます。また、報告に先立って、室蘭工業大学の板倉賢一教授に「ローカルエネルギー源としての石炭地下ガス化と地域創生モデル」と題した特別講演をお願いしています。

昨年度は、独立行政法人の制度改革を受けて、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構として、新たな一步を踏み出した年であるとともに、事業を進めていくうえでの礎となる中長期計画の初年度でもありました。

幌延深地層研究センターについては、その中長期計画に基づいて策定した、平成27年度調査研究計画が順調に進み、着実に成果をあげつつあります。これも、幌延町や北海道の地域の皆さまのご理解、ご支援の賜物と深く感謝しています。

一方、実際の地層処分の事業については、国が前面に立って科学的な見地からみた有望地を年内には提示していくという方針が示されており、処分事業の大きな転機を迎える年となります。

このような状況の中で、幌延深地層研究センターが今後とも研究開発の中核的な拠点としての役割を果たし続けていけるように、国の方針や処分事業の進展状況などを見据えながら、柔軟性をもって研究開発に取り組んでいきたいと考えています。また、研究開発を進めながら将来の計画についても検討し、平成31年度末までに、研究終了までの工程やその後の坑道の埋戻しなどを含む全体の計画を策定する予定です。

研究を進めるに際して幌延町および北海道との間で取り交わした三者協定が大前提ですので、「放射性廃棄物を持ち込まない」、「研究が終わったら地下の施設は埋め戻す」といった約束をしっかり守りながら公明正大に、かつ最大限の成果が得られるように進めていければと考えています。

今後とも、安全を第一に情報公開を徹底させながら、着実に研究開発を進めていきますので、引き続き、ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

以上